

令和7年9月10日(水)



本校は、地域の方が毎朝校門付近の清掃や落ち葉掃き・雑草除去等をボランティアで行ってくれています。この夏は観測史上最大の暑さだったこともあり、花壇の雑草は伸び放題。作業も大変でした。今朝は、校門に入って正面にある円形花壇の整備をしてくださっていました。ここには、本校のシンボルツリーである黒松とツツジが植わっているのですが、雑草だけでなく、植えた覚えのない木まで育ってしまっていて、まるでジャングルのような状態でした。ボランティアさんが、ノコギリを使ってこれらを撤去してくださり、すっきりした花壇に戻りました。これから、50周年行事や花いっぱい運動コンテストに向けて、秋・冬用の花を植えていく予定です。10月4日(土)は、PTA及び学校運営協議会の共催による花植え作業を行いますので、お時間の許す方はご協力いただくと幸いです。



新入大会に向けて朝練習も活気を帯びてきています。そんな中、市内駅伝の練習も併せて始まりました。陸上部はもとより、部活単位で参加したり、新体力テストの結果が良かった生徒にも体育科から声がかかります。今日は初日でしたので、ウォームアップを中心に練習を行いました。新入大会が終わると、さらに駅伝練習に参加する生徒も増えていくことでしょう。



駅伝競走(駅伝)は、日本発祥の陸上競技です。駅伝という名称は、飛鳥時代から奈良時代にかけて、使者と馬が中継所をつないで中央の文書を各地へ送り届けた「駅制」が由来とされています。日本で初めて開催された駅伝は、日本の首都が東京に移されて50年の節目を記念として行われ、1917年に開催されました。京都～東京間の508kmをリレーでつないだというのですから驚きです。今では、お正月の箱根駅伝が新年の風景として定着していますが、これはオリンピックのマラソン選手の強化を目的として始まりました。駅伝は、個人の努力とともにチームとしての信頼と結束力が欠かせません。制限時間内にタスキをつなぐという行為には、そこに一人一人の想いをつなぐというドラマも生まれます。駅伝は、「みんなで」という日本人の国民性にもマッチしている競技といえるかもしれません。

6校時は、生徒会役員選挙・立会演説会及び投票が行われました。各立候補者の演説は、とても堂々としていて、大井西中をよりよくしていくためのビジョンが明確であり、覚悟と決意と夢が感じられるものでした。応援責任者の演説も立派でした。今日まで、選挙管理委員は多忙を極める日々だったと思いますが、公平公正な選挙を行うために、一つ一つの仕事をきちんとやり遂げることができました。本校の伝統が脈々と受け継がれている素晴らしい取り組みでした。さあ、選挙結果はどうなるでしょうか。結果公表は、明日の朝8:00です。

